

JA須高りんご部会  
高山支部はこのほど、  
信州高山さわやかりん  
ごの最高等級プレミア  
ムゴールドの二個用と  
一個用の化粧箱を作っ  
た。リンゴの花が咲き  
誇る高山の春をイメー



## JA須高りんご部会高山支部

ジシ、白とピンクを基  
調に花と実を描いた温  
かみのあるデザイン。  
果物専門店などでの販  
売を念頭に、ほかとの

## 化粧箱を製作—高級感を演出

差別化やより高級感を  
出すために製作した。  
産学官連携事業で女  
子美大生から提案され  
た図案をアレンジ。枝  
をイメージしたライン  
と、リンゴの花と実が  
水彩画のように描かれ  
ている。コンセプトの  
「白の香り赤のためい  
き」と、高山の春の情  
景を文章で説明してい  
る。箱の大きさは縦十  
二センチ、高さ八センチ、二個  
用は横二十三センチ、一個  
用は十二センチ。

ブランドとして二層の  
PRを図りたい」と話  
している。

同支部では「高級感  
のあるいいデザインに  
なった。品質と共に、

# リンゴ 高級路線で勝負

# 2個入り化粧箱セット開発

長野県のJA須高リンゴ部会高山支部と同支所は、リンゴ2個入りの1000円を超す化粧箱セットを開発した。箱は女子美術大学（神奈川県相模原市）の学生らの協力で作製。11月に県が東京・麻布で開いたイベントで売り出し、市場出荷や直売所も含めてこれまで2000円販売した。同支部・支所は昨年、オールカラー印刷の10リットル用箱も作っており、高級路線をさらに押し進めた。

麻布では、「ふじ」2個入り後、30箱注文してきたりと「ふじ・シナノゴールド」各1個入りを約60箱販売の牧善則さん（58）は、色合いと味の違いを求め、場所や売り方によっては

てか、「ふじとゴールドのセットが売れた。麻布は地元客が多く案外地味。セットを作り、10月の行

て1箱3000円。箱の完成が遅れたため、直売所での販売は11月20日から、市場出荷は12月上旬からで、今年は化粧箱での販売期間が不足した。

「来年はシナノスイトや秋映のプレミアム（同支所設定の特秀上の規格）が入った化粧箱セットを作り、

## 東京で好評

### 今年は4市場へ

長野・JA須高

さらに売れる」と分析する。市場出荷は地元と大阪、名古屋の計4市場。

「化粧箱と同じデザインで、化粧箱が12個入る外箱も作った。支所の直売所では1個1200円で20個売れた」と同支所的小林和弘係長は話す。化粧箱は今年3000円作り、包装資材も含め

楽シーズンから売り出したい。価格は今年の結果を見て再設定する。東京市場へも出荷したい」と小林さんらは意気込む。

支所は高級リンゴ箱用に、箱を開けると「開封済」の文字が浮き出る金色銀色の封印シールも開発。高級イメージを高める工夫を続ける。



高級化粧箱入りのリンゴと封印シール

# おしゃれなりんご箱

高山共選所はこのほど、りんごを二個入れの化粧箱に入れて販売しました。女子美術大学の学生のデザインを基にした箱は、大変おしゃれでかわいいデザインでちよつとした贈り物にも最適です。「サンふじ」と「シナノゴールド」が入った箱は、赤と黄色のりんごが映えて箱を開けた瞬間大変感激しました。



▲りんご2個入れの化粧箱

# 「サンふじ」 桐箱出荷

長野県のJA須高りんご部会高山支部とJA高山共選所は今年から、リンゴ晩生種「サンふじ」の最上級品を桐（きり）箱に詰め「白の香り赤のためいき」の名前で販売を始めた。支部と共選所は、厳しい選果基準の導入で「信州高山さわやかりんご」のブランド化を進めているが、より上級のグレードに品ぞろえを広げること、産地イメージの向上とリンゴ価格全体の底上げにつなげたい考えだ。

「サンふじ」の出荷は1日から始まった。同共選所は、リンゴを4等級に選果し、最上級の「プレミアム」からさらに厳選したものを「プレミアムゴールド」として販売している。今回販売を始めた桐箱入りは、この「プレミアムゴールド」の「サンふじ」を使用する。8個入り（約3キ）で、一つ一つ和紙に包み、桐箱のふたに焼き印を押している。価格は1箱1万円。

「白の香り赤のためいき」は、同じく今年から販

売を始めたシードル（リンゴ酒）と共通のブランド名で、高級リンゴと加工品のセットで認知度アップの相乗効果を狙う。

共選所でリンゴの販売を担当するJA高山支所営農生活課の小林和弘係長は「メロンやサクランボの桐箱入りはあるが、リンゴは全国でも少ないと思う。それだけ自信をもって勧められる品だ」と自信を示す。贈答用などの需要を見込んでいる。

「サンふじ」の出荷は来

## 長野・須高JA 厳選した最上級品

月上旬までがピークで、年内いっぱい続く。プレミアムゴールドは10キ1万3000円。同共選所の出荷量の0・250・3%に当たる約2500キを見込む。このうちの一部を桐箱で出荷する。（長野・須高）



桐箱に詰めたリンゴ「サンふじ」の最上級ブランド「白の香り赤のためいき」



# 桐箱入りのリンゴ

JA須高りんご部会高山支部が販売

JA須高りんご部会高山支部（内山信行支部長、部員240人）は、サンふじの最高等級「プレミアムゴールド」用として桐箱の化粧箱を作り、2日から出荷を開始した。贈答用のメロンなどに桐箱が使われることはあるが、リンゴでは全国的にも珍しいという。

「信州高山さわやかりんご」のブランド戦略の一環。女子美大生がデザインした箱はあったが、販売店からの要望もあり8個入り用として桐箱を作った。一つひ

## 最高級サンふじ1箱1万円

とつ和紙に包まれて箱詰めされ、ふたには最高級リンゴや加工品に用いられるブランド名「白の香り赤のためいき」の焼き印が押されている。文字は久保田勝土村長が書いた。

東京などのデパートや専門店などで販売される。カタログギフトでは1箱1万円に価格設定されている。今季は500箱の出荷を見込んでいる。

同支部では「高山村のリンゴ全体のイメージアップにもつなげ、需要拡大を図りたい」と話している。

# 最上級リンゴ 8個1万円

須高農協 高山共撰所が商品化



農協職員や生産者代表が目視で色や形を厳選したものを「プレミアムゴールド」として販売。このリンゴを一つ一つ和紙調の紙で包み、商品名を焼き印で記したきり箱に詰めて出荷、販売する。

2個人入りの紙箱（2千円）でも同じ商品名で販売。きり箱との合計で同共撰所の年間全出荷量約660トのうち約900キを出荷する予定だ。市場出荷もするが、直売分は既に予約で埋まっているという。

同共撰所に出荷する村内の農家約240人は、全員が農薬と化学肥料の使用量を減らして栽培する県の「エコファーマー」認定を受けている。

同共撰所は「低価格志向が消費者に広がっているが、高くても品質の高さを評価してくれる人に販売したい」として

いる。

須高農協高山共撰所（上高井郡高山村）は、2009年産のリンゴ「サンふじ（無袋ふじ）」で、最上級の贈答用商品「白の香り赤のためいき」＝写真＝を発売した。価格は

きり箱に8個計3キを詰めて税込み1万円と、同共撰所が

扱う無袋ふじの平均価格の10倍以上。不景気による果物の価格低迷に対し、高級品を作り出して村内産リンゴ全体のブランド力を上げようと商品化した。

同共撰所はリンゴを5等級に選果し、最上位級の中から